学習体験記

ある先生の言葉

国際コミュニケーション学部３年
迫田　篤志

私は以前、実用英語技能検定の準１級の筆記試験に合格して、あとは面接試験をパスすれば正式にこの検定の実績を履歴書に書けるところです。今回は英検準１級の筆記試験を受ける際に、ある先生の言葉が私を奮い立たせてくれたことの話をします。

英検は私の学科の学生ではほとんどの人が２級までを受かっているように思われます。しかし､同じ学科の友人に「準１級は受けないの？」と疑問を投げかけると、皆が口を揃えて「単語がヤバいから受けない」と言います。たしかに、初めて私が英検準１級パス単を手にした時、２級との差に驚いて単語帳をそっと閉じたことがあります。最初は私もこんなもの無理と決めつけていました。

しかし、ある授業を担当していた愛大出身の非常勤講師A先生が授業中にこんなことを言いました。「私学文系四大、なにもしないとダメになるよ」と。彼女の話は愛大生という身分を経験しているからか、どこか強い意志を感じた上に、やはり説得力がありました。たしかに私は法学や経済、経営の知識は無い上に、これと言ってできるものもありませんでした。さらに、私たち英語学科の学生は就活において、帰国子女や、長期留学経験者の、もうそれは、私の英語力とは桁違いの発音の良さ、英語表現力、会話能力をかけ備えた人たちと闘わなければならないという宿命があります。となると、A先生がおっしゃった通り、何もしないとダメになるというのは確かで、私は彼女の言葉に鼓舞されて、とりあえず手始めに準１級に受かってやるという強い意志を持って勉強を開始しました。単語帳は本当に初見の単語が多かったのですが､浪人を経験している雑草魂からくる根性で、単語帳の音声をひたすら聴き、単語を聞いただけで意味が一瞬で出てくるくらいまで、私はその単語帳を使い、一次をパスできました。現在は面接試験の対策をしているところです。

中国語を学んで

経済学部２年　垣野　紗輝

私は履修選択をする際にどの言語にするかを悩んでいました。そんな中で、中国語は漢字を使うため日本人が親しみやすいということと愛知大学は中国に関する教学が盛んということを知り、中国語を選択することにしました。

ここでは私がこの１年間実践してきた中国語の勉強法と感想を述べたいと思います。最初に勉強法について紹介します。予習は教科書の本文をノートに書き写すという作業をします。その際に私は漢字を間違えないように書くことと意味を必ず辞書で調べるということをしていました。なぜなら、中国語は日本語と同じで漢字を使いますが、中国語は簡体字なので日本の漢字と少し形が違うものがあるからです。また意味が同じ漢字でも日本と中国では意味が違い、全く反対の意味を持つものがあるので思い込みで覚えてしまわないようにするためです。次に復習の仕方は先生に教わったように教科書の本文をCDに合わせ、声に出して10回読み、中国語を一回書くという作業を３度繰り返すという方法で勉強をしていました。しかし私の場合､声調を正確に発音する事が難しかったので、CDの音声を携帯に入れて通学の電車や空き時間などを利用し繰り返し聴いたり家でもCDを聴きながら声に出したりして声調を掴むようにしていました。

最後に中国語を履修した感想を述べます。履修して間もない頃は勉強についていけるのか不安でしたが、先生に教えていただいた勉強法と自分なりの勉強法を合わせて取り組むことでいつの間にか不安は消え、楽しさに変わっていました。さらに努力が認められ中国語スピーチコンテストにも出場させていただく事ができました。賞には手が届きませんでしたが、人前で中